
始めの言葉（教頭）

1 会長挨拶

ようやく授業参観ができて学校の様子を見ることができました。参観した様子もふまえながら忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

2 校長挨拶

夏休み含めて、大きな事故もなくここまで来ています。先週末、1学期101日が終わり、終業式を行い、2学期101日が始まりました。

この授業参観も1学期2回予定していましたが、コロナがやはり参観できる状況ではありませんでした。全国的な減少とともに本校でも減り始め、最近では感染者もようやくなくなりました。来週は3年ぶりの修学旅行も予定されており、実施できそうな状況です。

この会は学校評価委員会も兼ねています。その視点からご意見をいただければと思います。

【進行 会長】

3 協議

(1) 学校より

ア 学校評価（前期）について

「児童は楽しく学校生活が送れている」の項目は、児童・保護者・教職員ともに高評価を得られた。コロナ禍にありながらも、この評価は何よりである。継続していきたい。

「話を聞くこと」については、児童はよくできていると捉えている。ただ、大人の評価との間にずれがある。児童はよくできていると捉えているので、その肯定感は認めていきたい。あいさつも含めて、コミュニケーションの際の相手意識を高めていけると良いと考える。

「読書」については、昨年度からの課題となっていたが、評価の数値は上がった。今年度から週末に設定した家庭読書の日や朝読書の時間を使って読書をする児童が増えたといえる。ただ、このように設定された読書の時間に読むだけではなく、自ら進んで本を手にとる姿を目指していきたい。

イ 学力学習状況調査について

全体的に見ると、静岡県や全国の平均を下回る結果となった。

ただ、漢字の正答率は平均を大きく上回り、朝学や花まるテストなどでの継続的な漢字練習の成果が出ていると考える。

苦手としているのは、「考えること」と「予想すること」といえる。話し合いにおいて論点とずれていることを主張したり、とある事象や結果から考察する際に課題に適さないまとめを書いてしまったりする傾向にあることが分かった。また、見積もりをする際におよその金額や量をイメージすることや、友達が考えていることを想像することなどにも苦手意識をもっている。これらの苦手意識を払拭するためには、ふだんの生活の中で様々な経験をすることや他者と関わる機会を設けることなどが必要であると考える。

(2) 各委員より

・辻委員より

保護者と教職員で評価に差がある質問番号「4. 5. 7. 8. 14」については、自分の子供に対する評価が厳しいのか、子供が2面性を持っているのか、どちらなのか気になる。自分の上の子供の時、面接で担任がやたら評価してくれた。しかし、家ではそんな様子はないと伝えたところ、それは良いことだと言われた。つまり、「学校では緊張して頑張っているが、家では安心して過ごせる場所だから、そういう姿になる。これが逆だと問題。」と言われてことを覚えている。ただ、「14」あたりは、家で指導を受けていないような状況もあるのだと思われる。

・稲葉委員

「14」の項目については、こういう話は確かに自宅で話すことは少ない。学校で防災キャンプを子供たちはやっており意識が高まっているが、保護者は見ていないことも影響していると思う。

また、保護者の評価が厳しくなっているのは、保護者は、我が子に対して、ここまですべて欲しい気持ちが強いからと考える。ただ、子供たちが高い評価をしている部分を保護者が批判してしまうのは良くない。それをしていないかが心配。

・長澤委員より

評価を記号で示してあるのでわかりにくいですが、数値にするとそれほど大きな差とはなっていない。また、保護者と子供の同じ内容の質問をしているが、保護者から子供を見ての質問にするため、どうしても保護者の方が一段階、質問の質が上がってしまう。それも影響していると考えます。

・辻委員より

ゲームの取り組み頻度も気になる。自分の子供が小学生低学年の頃は、宿題等、やることをちゃんとやっておけばゲームをやらせてやるという約束を子供とした。併せて、子供と一緒にゲームを楽しんだ。学習面でも効果的だったし、一緒にゲームをやることで親子のコミュニケーションにも役立つ等、とても効果的だった。しかし、効果的なのは低学年までであった。最近、子供たちが公園に集まっている姿を見た。とても良いことだと思って何をやっているかと見てみたら、ゲームに取り組んでいた。それも、それぞれが別々のゲームに取り組んでいたのでびっくりしたことがある。

・石井委員より

(辻井員へ) お子さんがゲームやらなくなった時期はあるか。

・辻委員より

上の子は、やはり、高校に入ってから、部活動と生徒会活動が忙しくなってからやらなかった。下の子は、ゲームから離れたと思ったら、YouTubeにはまり始めている。その子が最近、自分はコミュニケーション能力が低いことを悩んでいるようである。上の子供との関係の中で様々なことを経験させなかったことが要因と考えられ、親として反省している。

やはり、部活や熱中するものができると感覚が変わると思う。私は、子供が高学年になったくらいから、ゲームに関わらないようにした。本を読む姿を見せることで、こちらの世界に引き込もうとしていた。しかし、効果がなかった。やはり、姿を見せるだけではだめで、本を読むことの面白さ、楽しさをもっと積極的に伝えるようにしていけば良かったと感じている。

ただ、下の子がYouTubeにはまっている中で、自分の好きな自転車競技のものを見ている。フランス語やスペイン語の動画が多いが、それを見る中で、自転車用語だけでも理解ができるようになっていくらしく、悪いことばかりではないこともあった。

・稲葉委員より

ゲームも悪いことばかりではない。我が家では自分は参加できないが、子供と父親がバーチャルの世界で交流をもっている。親子とのコミュニケーションツールにもなることもあるので、ゲームの種類、使い方によっては、全てゲームを悪として目くじらを立てることもないと感じる。

ゲームとは別の話になるが、コミュニケーションと言えば、マスクが大きな障害となっていると感じる。表情には、その人の気持ちが表れている。相手の表情をみて、相手の気持ちを慮ることができなくなっている。早く、マスクを外した生活ができるようになることを願う。

(3) その他

・久保田委員より

読書には電子書籍の数も入っているか。

→読書記録にはそれは入っていない。家庭で個人的にはやっている可能性はある。

・辻委員より

函南小で子供がスマホを持っているのは、どの程度の割合か。

→手ともに記録がないのでわからない。

終わりの言葉 (教頭)